

2023年9月研修報告書

□事項

- 氏名 :入江 文子
- 国籍 :日本
- 所属 :国際通商課
- 研修部署課:国際通商課

□ 結果報告

○ 主要日程

- 9月1日(金) - 9月2日(土) K2H 大邱 チメクフェスティバル
- 9月14日(木) - 9月15日(金) K2H 世宗キャンプ
- 9月20日(水) - 9月22日(金) K2H 済州 ファイナルワークショップ

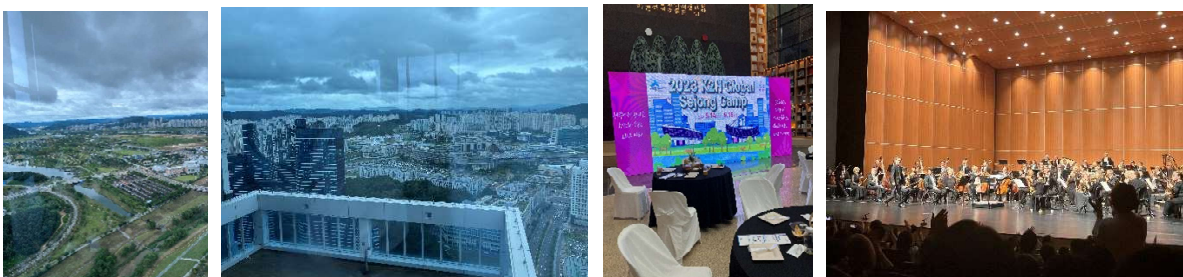
○大邱 チメクフェスティバル

K2H プログラムの一環で、デグで開催されたチメクフェスティバルへ参加しました。チメクフェスティバルは今年で11周年になるとのこと。今年も韓国人だけでなく海外からの観光客も多く参加しているのが見られました。その他、韓国の伝統文化の体験として、寺院(八公山 パルゴンサン)の訪問や茶礼体験なども行いました。韓国にはあまり煎茶を飲む文化はないのかと思っていましたが、出された茶葉が釜炒り茶と同じような形状だったので、時代や、地域によっては、煎茶を飲む文化があるのだろうと思うと同時に、日韓の文化のつながりを感じました。また、時間の合間に近くの宗廟を訪れました時に、豊臣秀吉が朝鮮出兵(文禄・慶長の役)の時に戦った將軍、李舜臣に縁があると説明を受け、教科書に載っていたことと現実がつながったことでより興味深い記憶になりました。



○世宗キャンプ

ソウルが過密すぎるということで、大統領府を除いたそのほかの政府機関が世宗市に移動してできた行政首都を見学しました。ソウルから KTX で 30 分ほどでつくので、アクセスはいい場所です。耕作地を切り開いて作った都市なので、町はまだまだ開発途中といった様子で、耕作地と都市が入り乱れていました。日中、あまり人を外に見かけなかったのですが、夜のコンサートに参加してみると、どこにいたのかと思われるほどの人込みで会場が満員になり、発展途中の町でもコンサートが開くことができるような施設が整っていることに驚きました。



○K2H ファイナルワークショップ（済州島）

9月20日～22日はK2Hプログラムの最終日で、各テーマに沿って自国と韓国の比較をして感じたことについてのプレゼンテーションが実施されました。韓国の交通の便の良さを自国の公共交通と比較したり、人事評価システムの比較をしたりした人の発表が印象的でした。ファイナルワークショップが終わった後、少し済州島観光をして、済州の特産品であるタンジェリンを味わったり、ストーンパークでは、火山島である済州島の成り立ちや地質についてなどを学びました。チュソクが終われば、K2Hの参加者がほとんど帰国してしまうので、少し寂しくなります。違う国の公務員と話す機会などなかなかないので、大邱や慶州などを一緒に旅行しながら、国の違いについてなど話せたことがとてもよい経験でした。

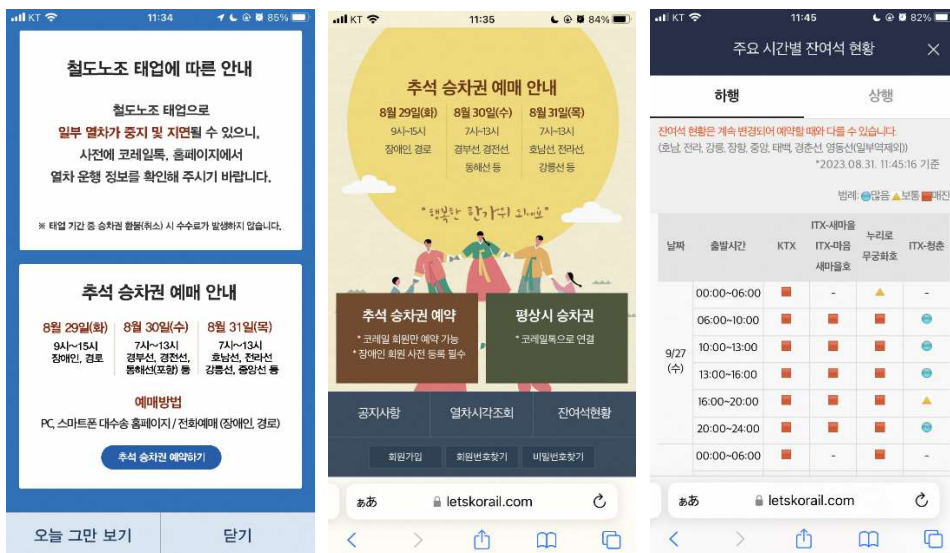


○週末活動

<チュソクの切符争奪戦 >

※チュソク（秋夕）…韓国の代表的な伝統的な祝日。収穫感謝祭とも呼ばれ、穀物や果物など作物の収穫を感謝する日。

2023年のチュソクは9月28日から10月1日ですが、10月3日も休日のため、10月2日を臨時休日とすることが決定され、9月28日から10月3日の6連休になりました。友人から、チュソク時期はバスは大渋滞するし、KTXの切符はすぐ売り切れになるなどの事前情報をもっていたので、一か月前の予約戦争に参加しました。KO-RAILのいつものページで、チュソク時期だけ予約ができないようになっていて、発着場所によって予約日が変えてありました。



ソウルから釜山行は8月30日の7時～13時だけ先行予約ができることに、31日に気づいてしまったので、ページを見た時は、27日から29日にかけてのKTXの切符はすべて売り切れていました。それでも、31日の15時から、キャンセルになったチケットの販売があるということで、KO-RAILのHPの検索画面で15時前からスタンバイしました。一回検索画面が開きはしましたが、アクセスが集中しすぎているようで、何分経っても別のページに飛ばないので、試しに日本語に切り替えて検索するとすぐつながり、残っていたチケットを購入することができました。日本のお盆の季節や正月の季節で

も、ここまでではなかったような思いながらも、そういえば大学生の時、盆・正月に実家に帰るバスを、予約可能日の朝から1時間かけて予約したのを思い出しました。

<ナムチュンチョン スマート図書館>

南春川駅構内にとある建物があります。いつでも明かりがついているし、コンビニでもないのどろと気になっていたのですが、とうとう利用する機会があったので使ってみました。



スマート図書館と言って、ここで図書の貸し出しと返却ができます。この建物の中に4つほど機械がおいてあり、メインの機械では貸出が、他の機械では返却ができるようになっています。市立図書館は9施設ほどありますが、そのどの図書館で借りた本もここで返すことができます。とりあえずこの日は返却だけしてみました。緑の機械は日本語も対応しているので、案内に沿って本を一冊ずつ投入し、処理を待つだけです。この施設に関する口コミを読むと、市立図書館のどの施設の本でも、ネットで申請して数日待てばここで借りられるということのようなので、今度は貸出にも挑戦してみます。鳥取県でも、駅やショッピングセンターに市立図書館の返却ボックスがありますが、図書館閉館時間でも貸出してくれる機械があると楽だなと思いました。韓国では、市立図書館の会員であれば電子書籍が借りられるサービスも提供されており、日本の図書館よりも数段システム化が進んでいるのかなと思いました。